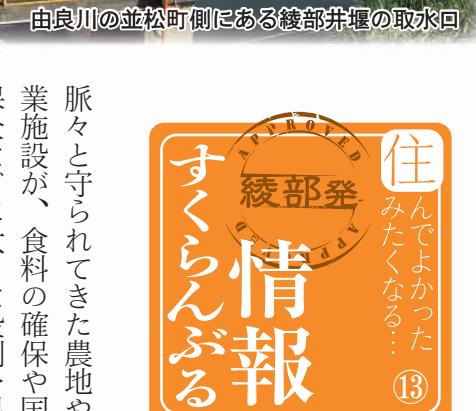


農を育む 井堰・用水



災害復旧工事中の栗村井堰



住んでよかつた
みたくなる...
⑬

綾部の由良川には以前、農業用水を取るために大きな井堰^{せき}が3か所に設けられていた。綾部井堰と栗村井堰、天田井堰である。天田井堰は1866年（慶応2年）の洪水で被害を受け、綾部井堰と水路をつなぐことによって廃止された。現在は、綾部井堰と栗村井堰が、農地を豊かにしている。

栗村井堰は以前工事中の栗村井堰

支部（支部長、山崎善也市長）を組織。農業の基盤整備を進めるため、さまざまな活動を行っている。



上柿理事長が綾部支部長（山崎市長）に受章を報告。3月30日、市役所

同支部に所属している綾部井堰土地改良区（上柿幸雄理事長、組合員930人）が3月25日、全国土地改良事業功労者表彰「金章」を受けた。

代々受け継がれてきた農地や農業用施設。命の源であり続けるためにも、多くの人の協力が欠かせない。

農業用施設を維持していくためには、日常の管理費に加え、老朽化に伴う改修費も必要となる。土地改良区は、施設を利用する組合員から賦課金を集めたり、組合員以外であっても特別徴収金を求めておりしてこれらの費用を捻り出している。

一方、栗村用水は福知山市にかけての由良川右岸流域22.9kmを潤す。用水路（一部バイブレイン）は総延長約19kmで、取水口は栗村井堰の位田町側にある。明治25年に発足した水利組合を前身とする栗村井堰土地改良区（梅原邦近理事長、組合員478人）が維持・管理をしている。

このほか、「綾部市志賀郷」「綾部市西原」「十倉」「綾部市奥上林」「口上林」の各土地改良区があり、地域の実情に沿った土地改良事業の推進活動を行っている。

農業用施設を維持していくためには、日常の管理費に加え、老朽化に伴う改修費も必要となる。土地改良区は、施設を利用する組合員から賦課金を集めたり、組合員以外であっても特別徴収金を求めておりしてこれらの費用を捻り出している。

代々受け継がれてきた農地や農業用施設。命の源であり続けるためにも、多くの人の協力が欠かせない。

「住んでよかつた 住みたくなる…綾部発 情報すくらんぶる」は、綾部市の施策・制度・イベント・名所・活躍する個人や団体…など、綾部のホットな市政情報や旬の話題を幅広くお届けします。